



2026年12月期 第2四半期決算説明資料

2026年8月14日

フロンティア・マネジメント株式会社

フロンティア・マネジメント（FMI）について

- 当社グループは、経営コンサルティング・再生支援からなるコンサルティング系事業、M&Aアドバイザリー事業、投資事業を国内外で展開。また、投資事業を行う当社子会社のフロンティア・キャピタル（以下、「FCI」）は、連結子会社の投資先として、模型、プラモデル、玩具等の販売を手がけるホビーリンク・ジャパン（以下、「HLJ」）を連結子会社として有する。



コンサルティング・アドバイザリーセグメント

投資事業セグメント

コンサルティング系事業

M&Aアドバイザリー事業

投資事業

経営コンサルティング

再生支援

- 事業分析・戦略策定、事業及び財務デュー・ディリジェンス（事業DD、財務DD）
- 中期経営計画策定、計画実行支援
- DX戦略立案・変革支援
- 企業価値向上支援
- 人的資本経営支援
- ガバナンス・リスク・コンプライアンス（GRC）支援
- 経営執行支援

- 再生手続支援
- 危機時・緊急時におけるPMOの運営支援
- 事業・財務構造改革の支援
- ステークホルダーの利害調整の支援

- M&Aディールアドバイザリー
- 戦略の立案、ロングリスト作成、ターゲット企業へのアプローチ
- 企業価値算定（バリュエーション）
- 契約交渉支援、クロージング業務支援
- ポストM&A（PMI）コンサルティング
- 事業承継コンサルティング

- 投資先の長期的・持続的な企業価値向上を目的とした投資・経営執行
- 金融機関や事業会社等との共同投資ファンド組成・運営

グループ会社

国内



フロンティア・キャピタル
（投資事業）



セレブレイン
（人事コンサルティング）

海外



Frontier Management (Shanghai) Inc.

〔経営コンサルティング、
M&Aアドバイザリー〕



Athema
（M&Aアドバイザリー）

投資先 （連結対象）



ホビーリンク・ジャパン

〔模型、プラモデル、
玩具等の販売〕

目次/Agenda

フロンティア・マネジメント（FMI）について

2026年12月期 第2四半期決算概要

1. 2026年12月期 第2四半期決算
 - 決算ハイライト
 - 連結決算のポイント
 - 営業損益の増減要因
 - 連結業績推移

事業別第2四半期決算概要

1. コンサルティング系事業
 - 売上高推移
2. M&Aアドバイザリー事業
 - 売上高推移
3. 投資事業
 - 実績推移



**FRONTIER
MANAGEMENT
INC.**

2026年12月期 第2四半期決算概要

1. 2026年12月期 第2四半期 ― 決算ハイライト ―

- 今第2四半期は、ALL連結の親会社株主に帰属する当期純利益において**前年同期比で増収増益**となった。単体はM&Aアドバイザー事業の復調により全体の生産性も改善傾向にある（前期構造改革による規模縮小に伴い、除FCI連結の売上高は約8%減少）。また、当期は前年同期に発生した一過性費用が限定的であった点も当期純利益改善の要因となった。

グループ総評

- 連結売上高は6,944百万円、FCI投資先のHLJ連結子会社化によって**前年同期比120%の増収**となる
- FMI単体の構造改革を**概ね完了**した結果、M&Aアドバイザー事業の業績改善が顕著であったことに加え、経営コンサルティング事業においても**全体の生産性改善**が進んだ。FCIも投資案件数増加による収益拡大に伴い赤字幅が圧縮され、**ALL連結の営業損益は83百万円（前期▲10百万円）に黒字転換し、経常損益では▲4百万円（前期▲199百万円）**となった
- 親会社株主に帰属する当期純利益においては、**除FCI連結の全利益段階で黒字化**している。ALL連結では、税務上損金算入ができないのれん償却費用に起因するFCI投資先税負担の影響等から▲115百万円となったものの、前年の一過性費用（HLJ取得やFMIの構造改革費用等）が今期に発生しないため、**前年同期比+283百万円の増益（赤字圧縮）**となっている

事業別実績

- コンサルティング系事業**（経営コンサルティング事業及び再生支援事業）は売上2,896百万円（前年同期比79%）となり、構造改革の人員数適正化によって事業規模を一旦縮小させた上で生産性向上を進めている。新規及び既存顧客からの相談件数は増加傾向にあり、今後は**コア顧客との更なる関係強化に伴う新規パイプライン積上げとともに、各層における人員採用の強化と、これまで構築してきた組織的なプロフェッショナル教育による人員の質の向上**を図り、事業の再成長を図る
- M&Aアドバイザー事業**は売上1,136百万円（前年同期比164%）となり、昨年度導入した**注力セクター及び注力案件テーマに経営資源を集中するカバレッジ体制拡充**による成果が発現し始めている。今期からは国内案件への注力に加え、クロスボーダー案件におけるCFIグループ／Athemaとの連携も加速させており、更なる競争力の磨き込みと組織拡大を狙う
- 投資事業**は、今期中に**2件の投資を完了している**。着実な投資案件数の積み上げによる経営指導料報酬増等を通じて、FCI連結の黒字化に向けて堅調な進捗が見られ、FMIグループ全体としての関与と連携を加速させる

1. 2026年12月期 第2四半期 – 連結決算のポイント（ALL連結/除FCI連結） –

- 連結売上高（ALL連結）は、昨年連結化したHLJの期初からの取込もあり、前年同期比120%、+1,173百万円の実績。
✓ コンサルティング系事業は、前年同期比79%、M&Aアドバイザリー事業は、前年同期比164%
- 営業利益は83百万円で前年同期比+94百万円、経常利益は△4百万円も前年同期比+195百万円の改善。
- 除FCI連結においては、親会社に帰属する当期純利益が98百万円で着地し、各利益段階での黒字化を達成。

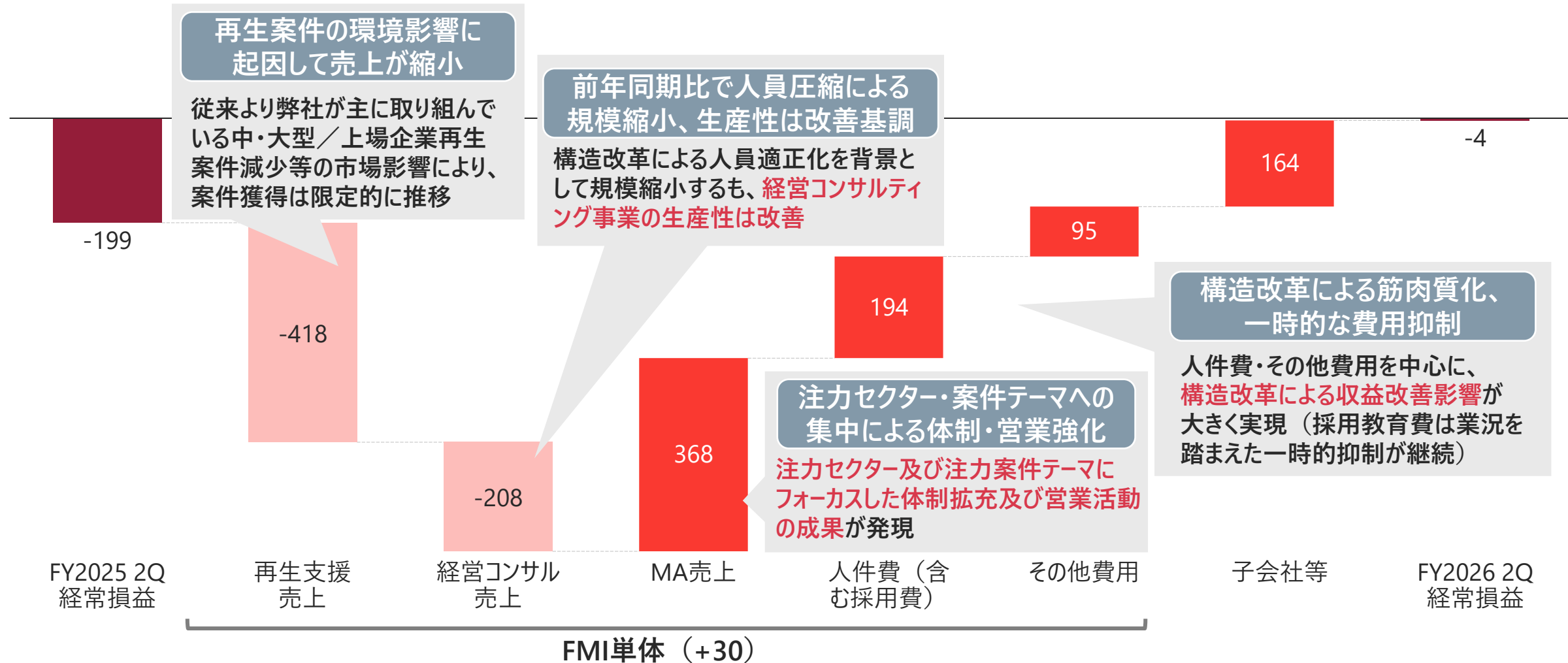
	ALL連結				除FCI連結			
	2025 / 2Q 累計実績	2026 / 2Q 累計実績	増減	前年比 (%)	2025 / 2Q 累計実績	2026 / 2Q 累計実績	増減	前年比 (%)
売上高	5,771	6,944	+1,173	120%	4,362	4,031	△330	92%
営業費用	5,782	6,861	+1,079	119%	4,201	3,871	△330	92%
外注費等	643	596	△47	93%	624	480	△144	77%
人件費	2,684	2,765	+81	103%	2,465	2,412	△53	98%
採用費	242	114	△128	47%	227	111	△117	49%
その他費用	2,211	3,384	+1,173	153%	883	867	△16	98%
営業損益	△10	83	+94	—	160	160	△1	100%
経常損益	△199	△4	+195	—	147	156	+9	106%
特別損益	△124	1	+127	—	△124	1	+127	—
税前損益	△324	△2	+322	—	22	158	+136	710%
親会社株主に帰属する当期純損益	△398	△115	+283	—	△22	98	+121	—
償却費等	131	285	+154	217%	29	50	+21	173%
EBITDA	121	368	+248	305%	190	210	+21	111%

【参考】

FMI単体営業利益	163	193	+30	118%
セレブレイン営業損益	15	△10	△26	—
Athema持分法投資損益	△2		+3	—

1. 2026年12月期 第2四半期 – 経常損益の増減要因（ALL連結） –

- 単体は前期に人員適正化による固定費圧縮を完了しており、再生市場環境の影響や人員数の差分によってコンサル事業の売上規模は縮小したものの、M&A事業の復調が牽引したことで事業全体の生産性は改善した。



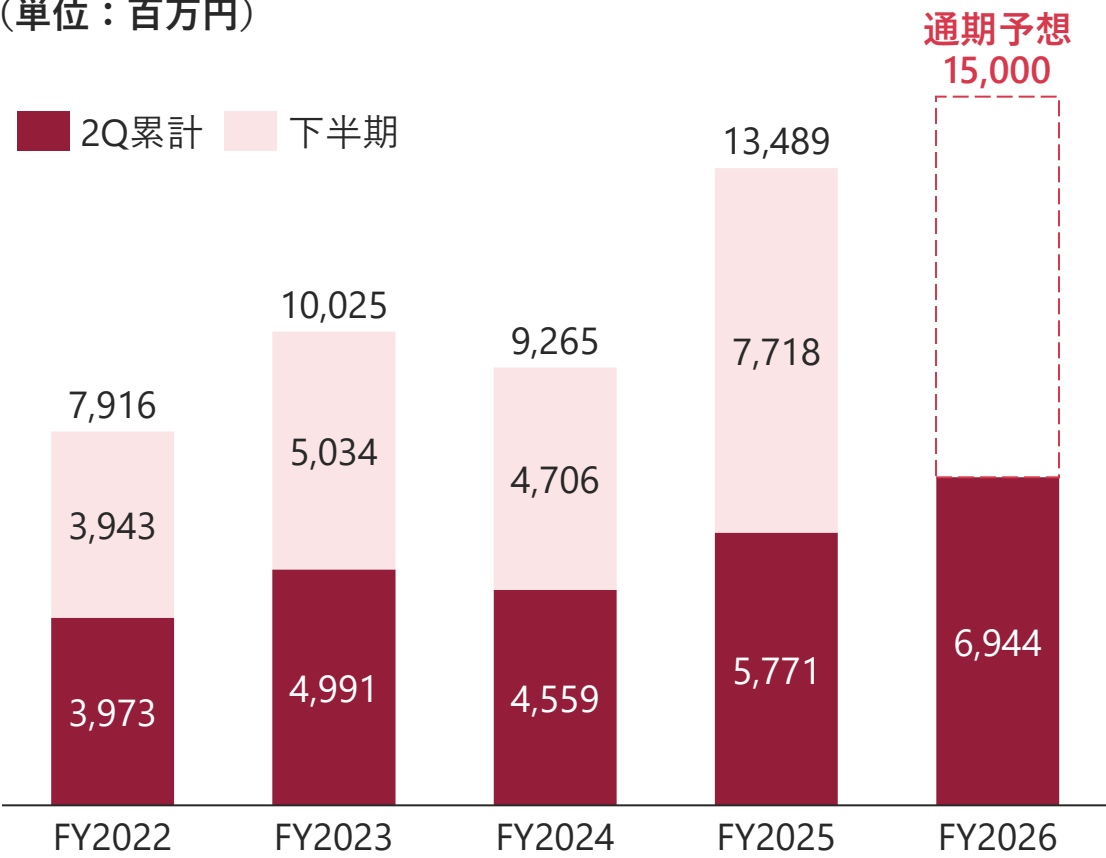
* コンサルティング売上・M&A売上に関しては、外注費の控除等を考慮しており、事業別実績とは必ずしも数値が一致しない点に留意

1. 2026年12月期 第2四半期 － 連結業績推移－

- 売上高は昨年連結化したHLJの期初からの取り込みもあり増収。営業損益もFMI・FCI連結両方の改善により増益。

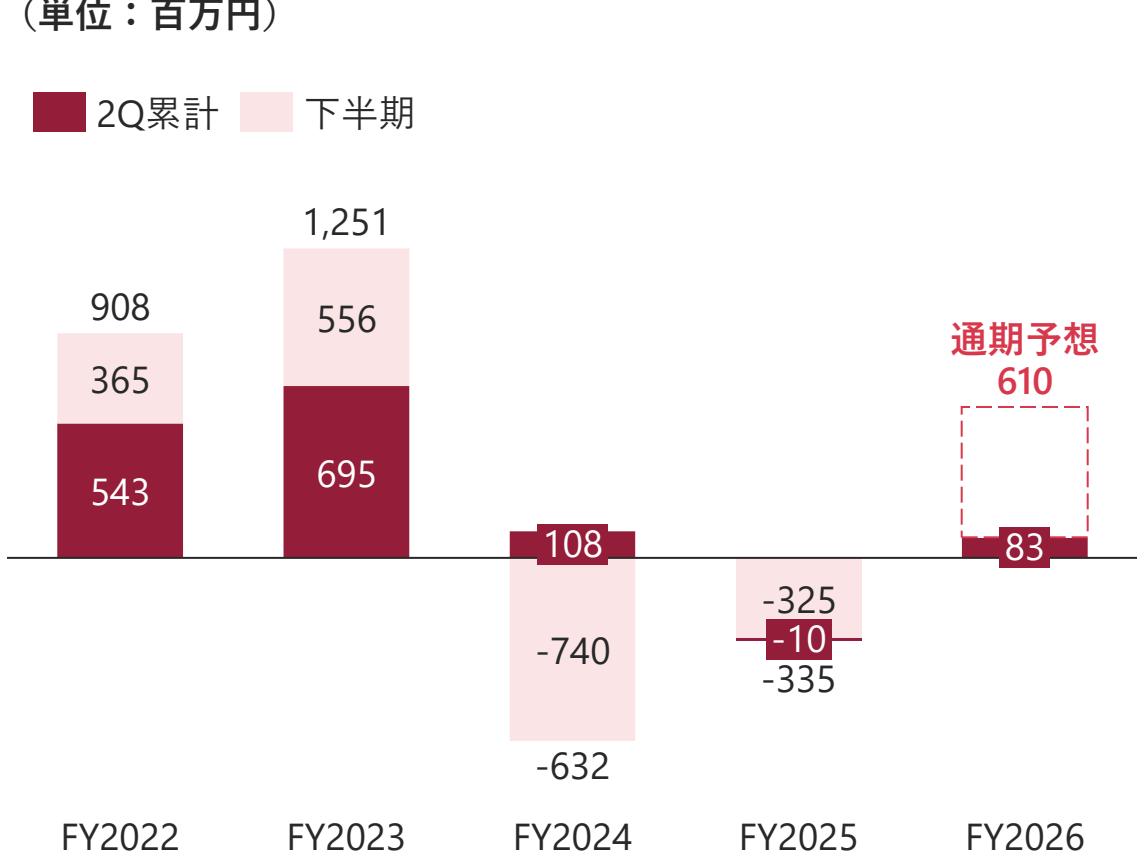
売上高

(単位：百万円)



営業損益

(単位：百万円)



(参考) 貸借対照表 (ALL連結)

- 2025年度末から現預金が前年比59%と減少した要因は、3月末の従業員への賞与支払いに伴う一時的な影響による。

(単位：百万円)

	2025年度末	2026年2Q末	増減	前年比 (%)
流動資産	11,435	10,453	△982	91%
固定資産	6,997	6,689	△308	96%
繰延資産	2	1	△1	60%
資産合計	18,435	17,144	△1,291	93%
流動負債	3,783	2,953	△829	78%
固定負債	4,708	4,362	△346	93%
株主資本	1,458	1,362	△97	93%
その他純資産	8,485	8,466	△19	100%
負債純資産合計	18,435	17,144	△1,291	93%
現預金	5,323	3,134	△2,189	59%
有利子負債	5,399	5,124	△274	95%
Net Debt	75	1,990	+1,915	2645%



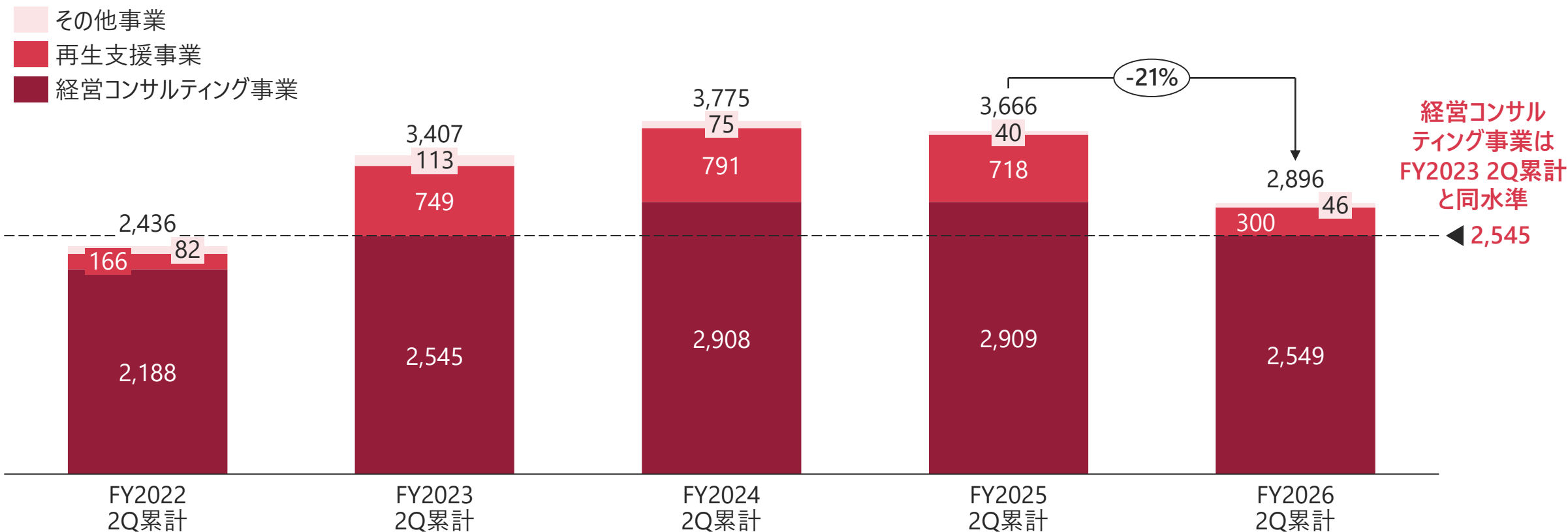
FRONTIER
MANAGEMENT
INC.

事業別実績

1. コンサルティング系事業 – 売上高推移（第2四半期累計） –

- 本第2四半期においてコンサルティング系の売上高は前年同期比▲21%の着地。事業別では第1Q以降、弊社が主に取り組んでいる中・大型/上場企業の再生案件の減少に起因する市場環境の影響により、再生支援事業は限定的に推移した一方で、経営コンサルティング事業においては生産性が改善傾向にあり、FY2023と同水準の売上高にまで回復している。

（単位：百万円）

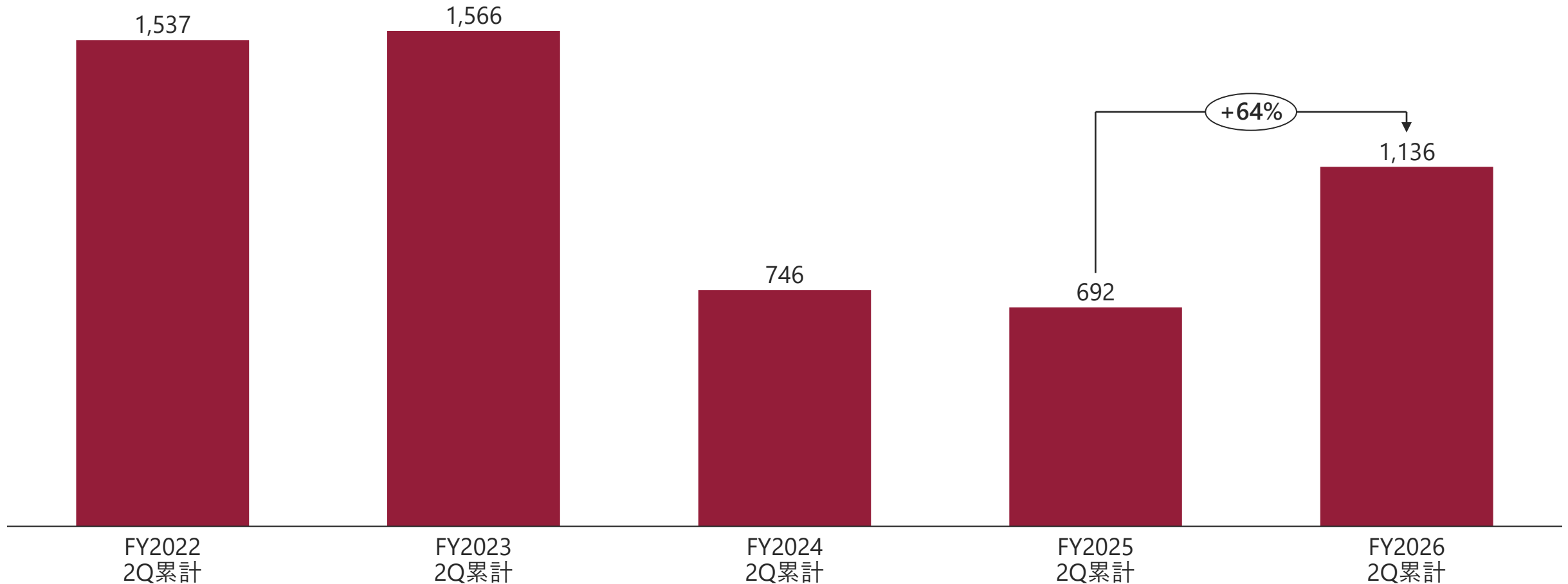


* セレブレインの売上高を含む

2. M&Aアドバイザー事業 ― 売上高推移（第2四半期） ―

- 本第2四半期のM&Aアドバイザー事業の売上高は、昨年度より導入した注力セクター及び注力案件テーマにフォーカスした体制拡充及び営業活動の成果が徐々に発現した影響により、前年同期比+64%の水準で着地となった。

（単位：百万円）

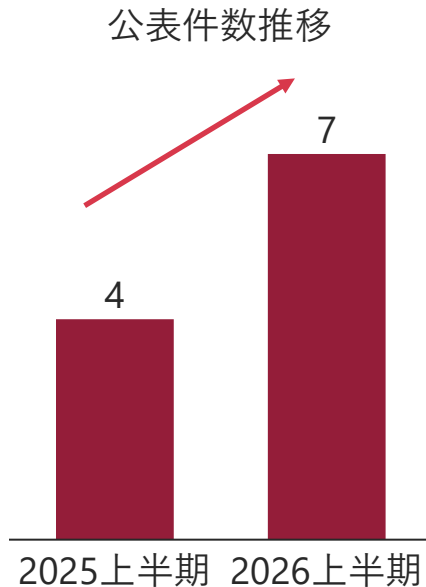


(参考) 2. M&Aアドバイザー事業 – 本上半期におけるトピックス (1/2) –

- ・ セクターマーケティング体制を強化し、国内クライアントと緊密な関係構築に注力している。
- ・ その結果、多様な領域でのM&A実績が積み上がり、クロスボーダー案件獲得にも波及している。

M&Aアドバイザー事業の戦略方針（本年度）

- ・ **セクターマーケティング体制を強化**し、主要顧客との関係性を強化
- ・ 「**成長投資（クロスボーダー含む）」「カーブアウト」「MBO / 非上場化**」のテーマを設定し、積極的にマーケティング実施



- ・ 国内注力セクターでの案件実績積み上げ
- ・ CFIインドとの連携案件などクロスボーダーでも着実な成果を創出

2026年度に公表した主な案件（一例）

セクター	概要
IT	・ ITコンサルティング会社のMBOにおける特別委員会FA
電機	・ 総合電機メーカーの資本政策に関するアドバイス
電子部品	・ PEファンド保有の電子部品メーカーの複合(EMS)事業の譲渡を目的とした株式譲渡
精密機械	・ 精密機械メーカーによる総合電機メーカーグループの車載モーター及び車載用冷却ファンモーター事業の譲受
物流	・ 日本の物流会社によるインドのコールドチェーン物流会社の連結子会社化
化学	・ 総合化学メーカーによる、医薬品メーカーの工場の事業を承継する会社の株式取得
金融	・ 大手地銀グループによるガスリース会社の株式持分の取得

(参考) 2. M&Aアドバイザー事業 – 本上半期におけるトピックス (2/2) –

- 当社のM&Aアドバイザー事業の特徴は、ヨーロッパ地域を含めた全世界でのクロスボーダーのミッドキャップM&A案件を手掛ける点にあり、今後は、これまで以上にクロスボーダー案件のFA事業基盤の拡充が期待される。

クロスボーダー案件獲得に向けた戦略（時点案）

基本方針

- グループ会社のAthemaや、M&AグローバルメンバーシップのCFIグループとの協業により、クロスボーダー案件のさらなる発掘を推進
- セクターごとにCFI各国が参加するミーティングを定期的に行い、案件情報や買手候補などについて、緊密な情報交換を実施

拠点戦略

ヨーロッパ・アジアを中心に情報連携を加速

ヨーロッパ：
パリ支店およびAthemaやCFIグループの拠点を活用

ASEAN・インド：
シンガポール支店、ベトナム室を中心に展開
インドでは昨年末と今期の公表案件2件に加え、複数案件で協議中

アメリカ：
他地域の活動が軌道に乗り次第検討

CFIグループの概要



Jean-Marc Teurquetil

- CFI (Corporate Finance International) は、欧州を中心に20か国に展開するM&Aファームのグローバルメンバーシップ
- 2017年にAthemaのJean-Marc Teurquetil氏がCFI議長に就任し、各国の連携を積極的に推進している
- 欧州を対象とした2025年のランキングでは上位30位以内の実績

欧州 | 2025 | ~5億€ のディールを対象とした ランキング*

順位	ファーム名	ディール数	2024年 順位	2023年 順位
1	PricewaterhouseCoopers	409	1	1
2	K3 Advisory Group Ltd	337	2	2
3	Rothschild & Co	309	3	4
4	KPMG	252	5	3
5	BDO	183	6	7
6	Houlihan Lokey	179	9	12
6*	Ernst & Young PLC	179	12	6
8	Baker Tilly International	178	8	11
9	IMAP	166	10	14
10	Oaklins	162	7	9
11	Clearwater	158	11	15
12	Deloitte	155	4	5
13*	Grant Thornton	127	15	8
13*	Globalscope	127	19	17
15	Clairfield International	116	13	13
~				
25*	CFI	76	26*	23*
25*	M & A Worldwide	76	NA	NA

3. 投資事業 – FCI連結の事業概況 –

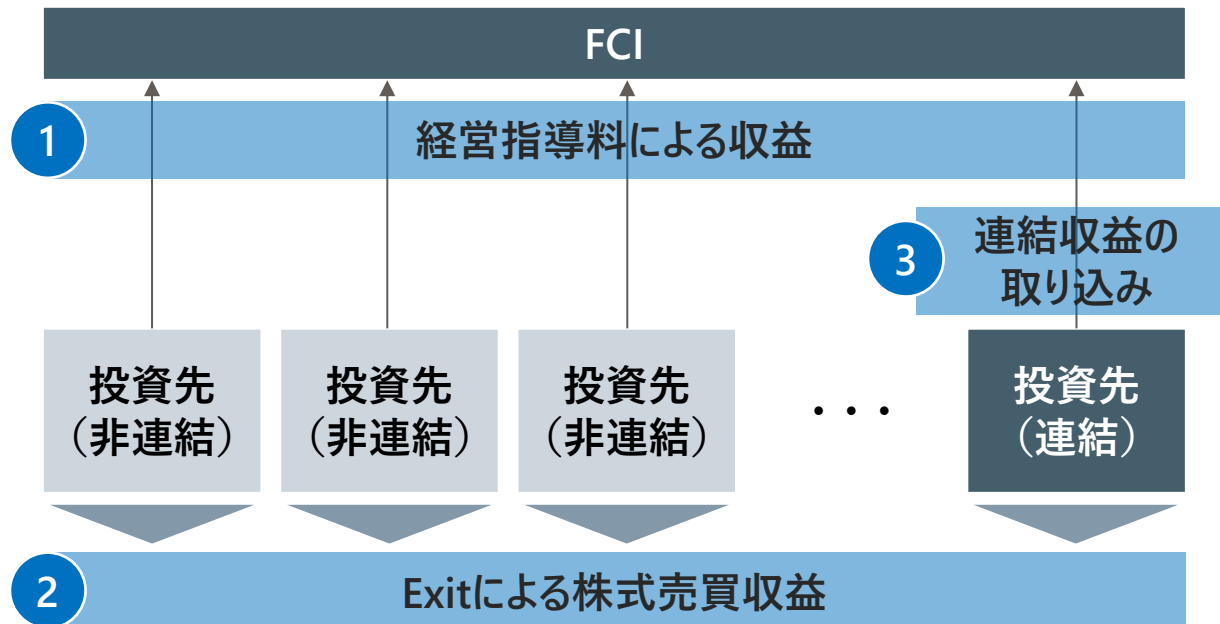
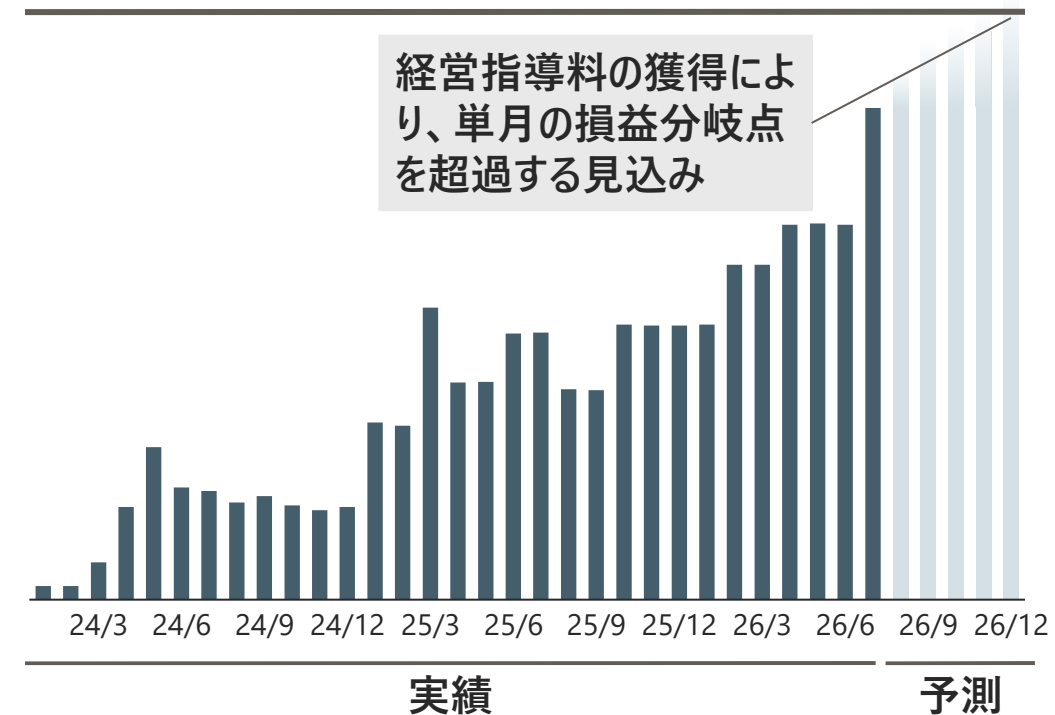
- FCI連結は、FCI単体/連結投資先（HLJ（のれん込み））のPLに分かれるが、このうち、FCI単体に関しては経営指導料の積み上げにより単月の黒字化が見えてきている。

FCI連結の収益構造

- FCI連結の収益は、**FCI単体の収益（①経営指導料による収益、②Exitによる売買収益）**、ならびに、**③連結収益の取り込み**により構成
- 通常のPEファンド（LP/GP方式）と異なり、外部投資家による種類株式出資により投資資金の大半を賄っているため、管理報酬という概念がなく、運営資金は、投資先から収受する**経営指導料等で賄うビジネスモデル（投資事業会社）**
- 他方、EXITにより回収した投資元本及び**利益部分の相当割合を再投資原資とすることができるため、PEファンドの様にクローズとレイズを繰り返すことなく、長期的な投資とファンドサイズ拡大を目指すことができるスキームとなっている**

FCI単体の①経営指導料による収益推移

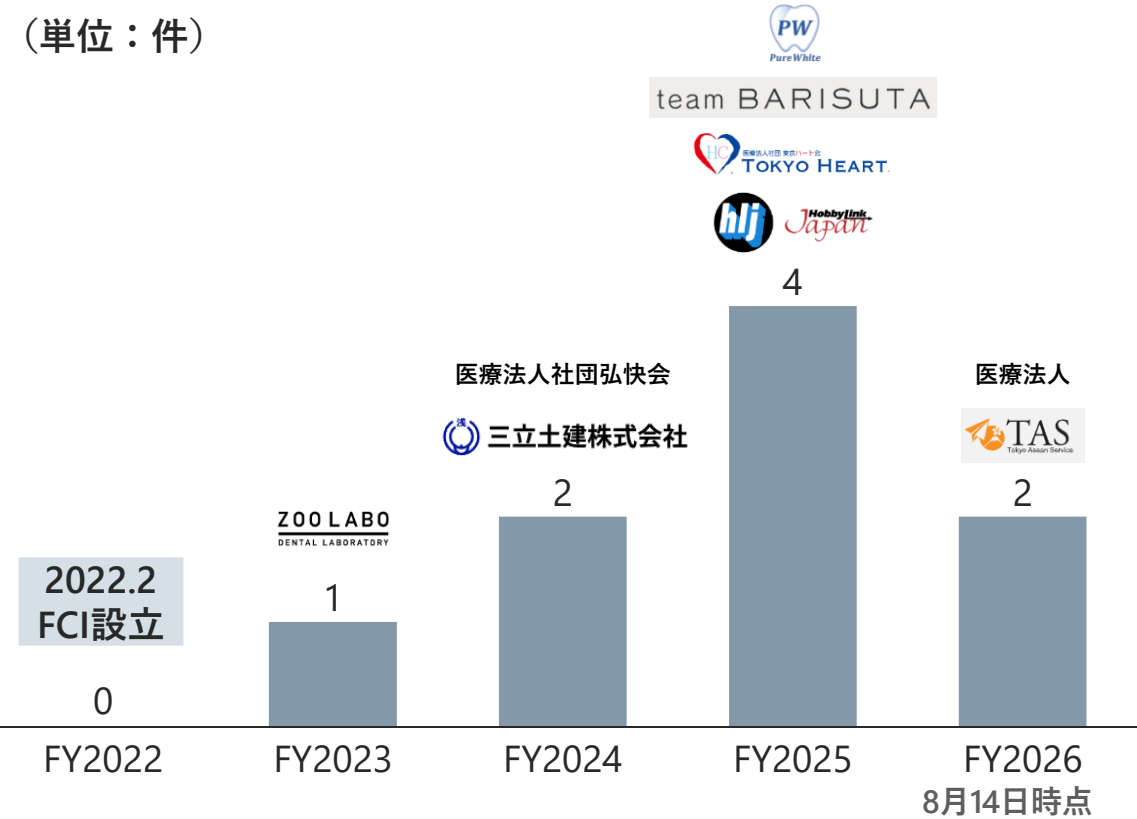
- 左記の収益の内、特に**①経営指導料による収益がこれまでの投資件数の積み上げにより増加しており、年内には単月の損益分岐点の超過を目指せる状態となっており、EXIT収益がない状態でも単体の黒字化を見込む状況となってきた**



3. 投資事業　－ 実績推移 －

- 2022年に投資事業を開始以降、2026年度の2件を含め累計で9件の出資を実行。
- 今後に向けては、契約締結済で投資実行待ちの案件が1件、独占交渉権を取得し、デューデリジェンス等を進行中の案件が2件と、パイプラインは順調に拡大。

これまでの出資案件



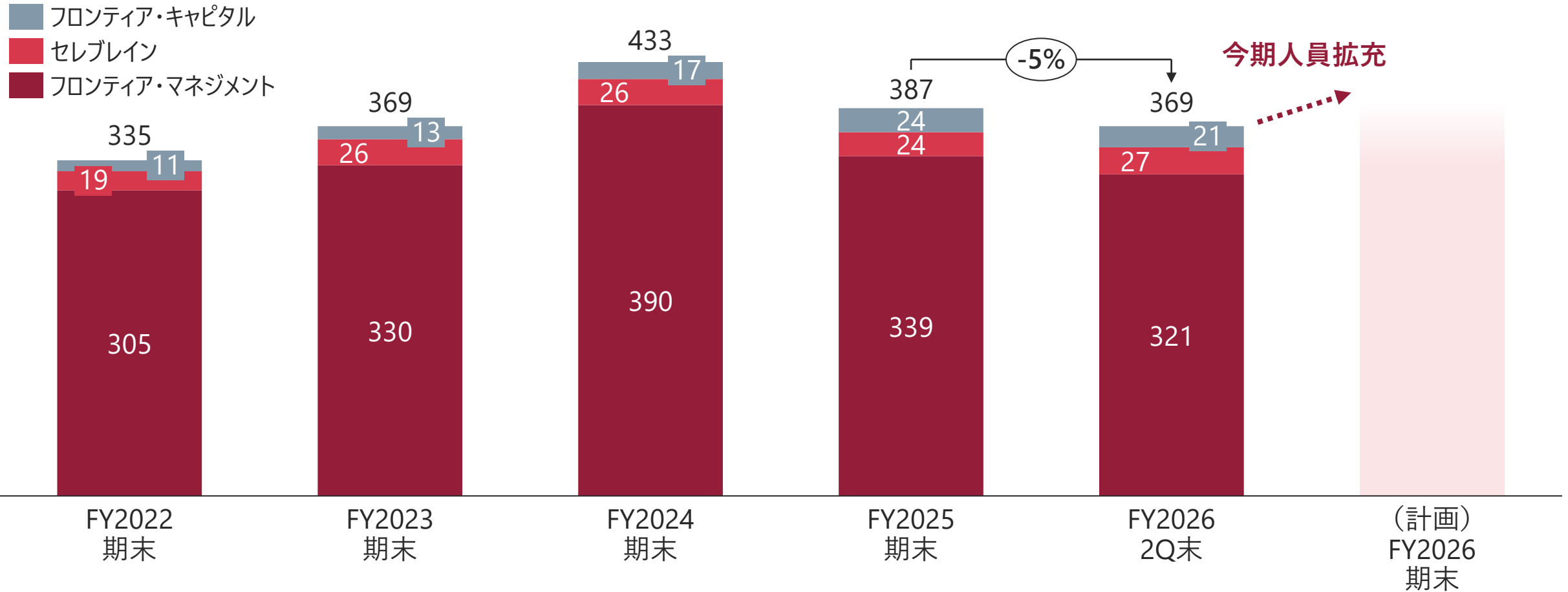
これまでの出資案件

出資先社名	事業内容	支援開始時期等
(株)ZOOLABO	- 歯科技工物作製 - CAD/CAMを用いた歯科技工業	2023年12月 2025年12月Exit済
三立土建(株)	- 総合建設業（土木・建築一式請負） - 土木・建築工事の企画設計及び施工の監督等	2024年3月
医療法人社団 弘快会	- 歯科医院の運営	2024年12月
(株)ホビーリンク・ジャパン	- 模型、プラモデル、玩具等の販売	2025年2月
医療法人社団 東京ハート会	- 内科及び小児科クリニックの運営	2025年3月
(株)チームバリスタ	- 飲食店の運営及びECサイトによる飲食物の 販売	2025年6月
医療法人社団 ピュアホワイト会	- 歯科医院の運営	2025年9月
(株)ティ・エ・エス	- 訪日旅行者に対するツアーの企画、手配等	2026年2月
医療法人	- 皮膚科クリニックの運営	2026年6月

(参考) 人員数*の推移 (2Q末時点)

- 前年は構造改革前の体制であり、本第2四半期末時点の人員数は人員適正化後で、前期末比95%の369人。改めて、採用活動の強化等を通じて人員拡充に向けた取り組みを継続。

(単位：人)



* HLJの人員数は除く

共に走る。未来を拓く。

Opening Up Your Frontier



FRONTIER
MANAGEMENT
INC.